

Kodak
LICENSED PRODUCT

© The Tiffen Company, 2000

KODAK Color Control Patches



筑紫紀行

八

凡書 4
 344
 8



昌
號 344
卷 8



筑紫紀行卷八

○五月廿六日空陰辰刻小倉乃宿を立出づ物心門を去

まば長濱村海邊小添れいて漁者の家五六軒並びたり

さそ頃日降らはきこる五月雨小此あらしの磯いそちり死田の水

いさうくしてせうふ浦の波も一面いんふりゆされば田尻植うは

女たすきも襠たすきをもち裾高すそくがげをれど猶なほうち濡ぬれく立たつと

見みく

こゝかきむあの方やと終はをとりあ子こく破やせこれ小田この

まゝとらなるをそと此所ハ萬葉集

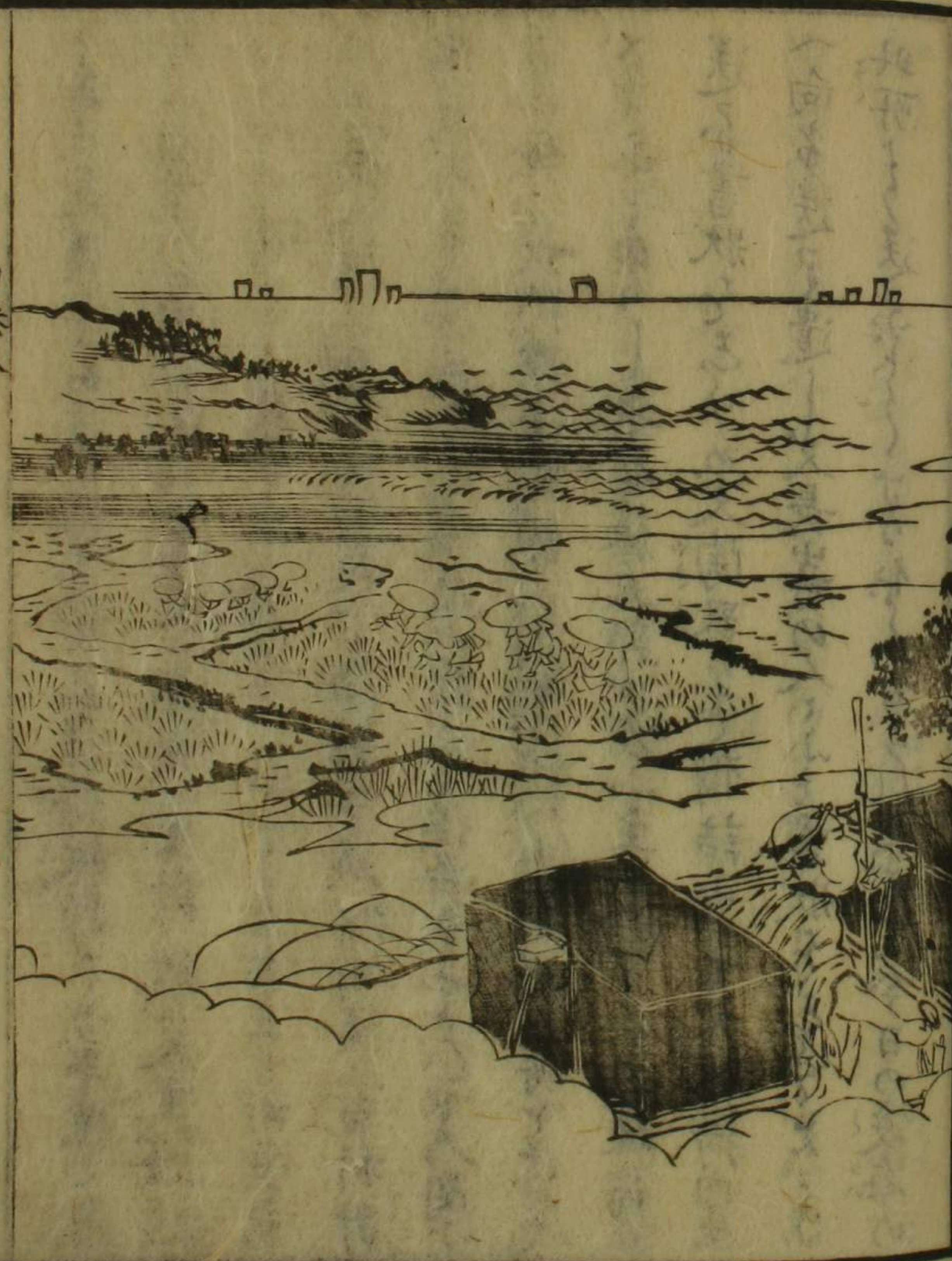
○卷八

一

水

水

○卷八



才方正
 企叔那
 長侯里
 海辺之
 風系

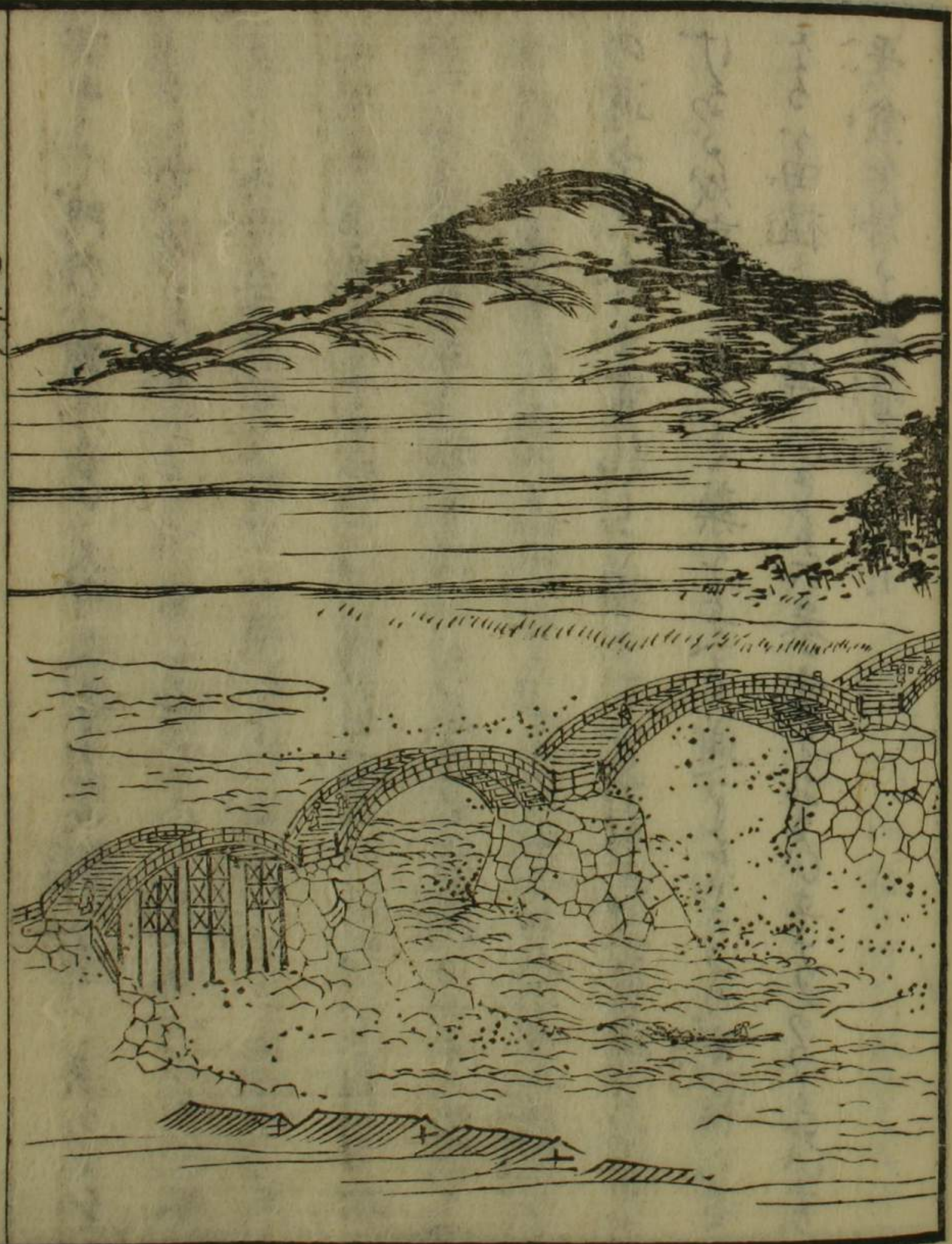
○五月廿六
 日

とある長濱小ありては此ありては企救郡なり半里ごり
行ハ赤坂人家三十軒計茶屋なり一里計行ハ大里小倉より
是より二里
八口小長崎より出張して抜荷を吟味する所あり町使役
乃者兩人は交替して是を勤むとて此所町屋二百軒計
宿屋ありて茶屋なり宿屋小はきて役舟をやとひ下乃関小
こゝに長門國赤間關豊前大里より是
より海上二里午刻頃小舟とけりて
さきふとありし米屋藤五郎が方小至り宿アを大坂へ向け
送ふ書状をとてめ又陶器などを樽詰りて大坂の河内屋
へ向ふ送る遣し又長寄の人小も書状をとてさきより
此所より送ふとてさきより今日渡海の

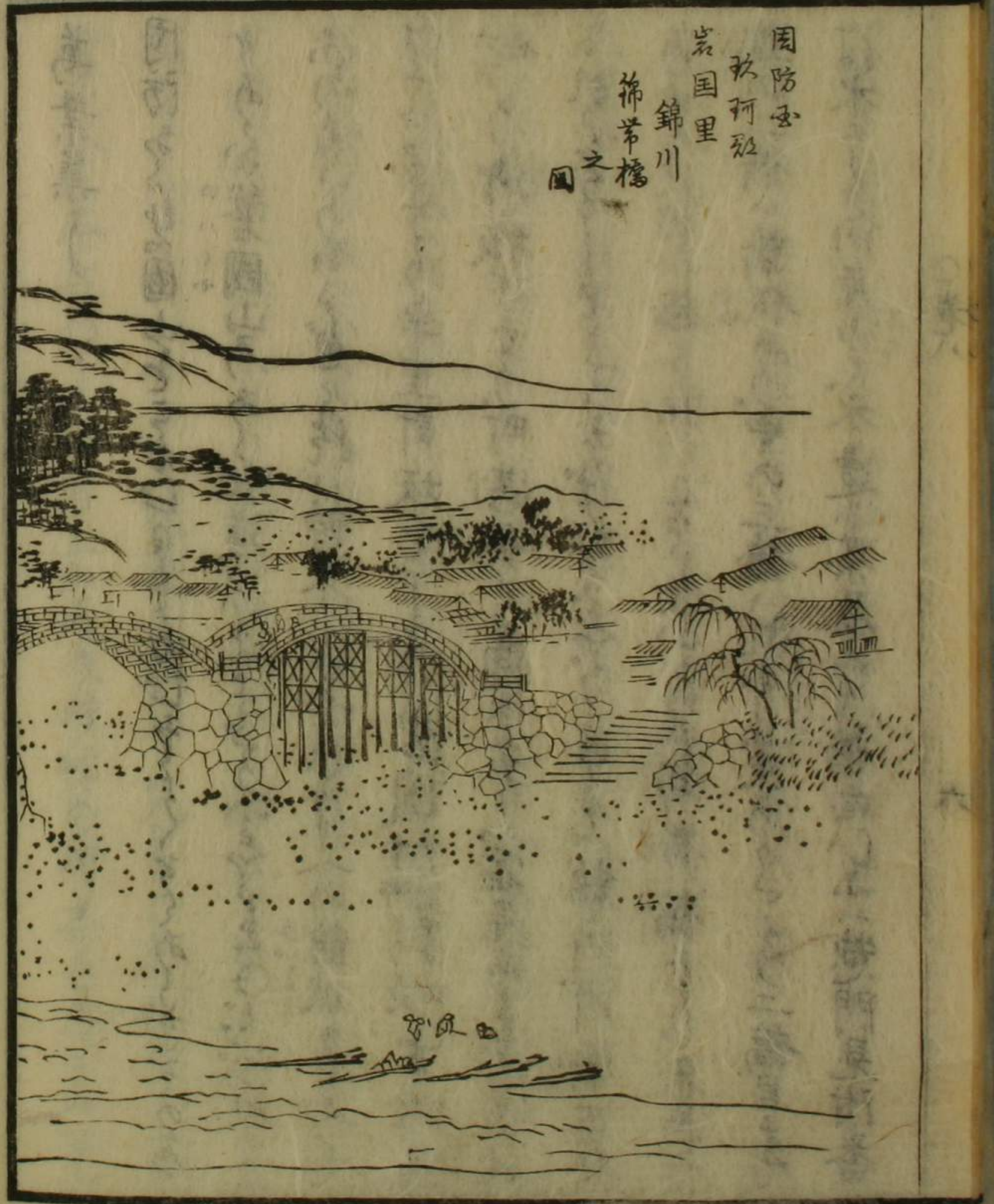
無難なりし喜びの酒宴をして此邊の若き人二三人招きて
浄瑠璃と語ふとてさきよりさきよりさきよりさきより
とてさきより招きて夜半まで遊興し酣酔して卧ぬ
○廿七日陰雨なり辰刻小立出づ宿酒いまだ醒ずして駕籠の
内ふりあがりぬさきより長荷小至る下の関より
是より二里かゝるふり小状
晴しより三十丁計行ハ馬の背村人家十軒なり茶屋あり
小月長荷より
是より二里吉田宿小月より
是より二里厚狭の市吉田より
是より二里を再
そびて暮つて舟木一里
ハ丁小よりて又肥後屋幸左衛門が
家小宿ふ甚懇小迎へ延入る故郷のおれいをする
○二十八日より卯刻過小立出山中宿是より
二里半周防國小郡

やうなる坂と十丁あまりのがまは六川村人家十四五軒商家あり
五六丁ゆげバ勝間村人家二十軒計商家あり茶屋あり半里
むらう行ぐ古市村人家二十軒餘皆農家なりサイ坂路と
下まきバ呼坂宿峠市より
是まで一里人家二百軒計商家多く宿屋茶屋
あり十丁むらうゆげバ鬼ヶ原村農家二十軒計あり三十丁計
行バ今市宿呼坂より是
まで半里人家四五十軒茶屋あり出口小川
あり土橋とくくせり是より山坂道少く半里計登まき峠り
至ふ此所を境少く東八都野郡西八玖珂郡とく表をてり
茶屋一軒あり此所ハ中山村の内なりとくくつて峠を十丁
げり下まき巴相川村人家十軒計茶屋あり出口小川あり

長さ六七間の土橋をくくつたりとくくつたりなる坂を二三丁
登りて五六丁下まき巴川岸小出づ此道を廿四五行ハ高森
此宿今市より
是まで一里人家二百軒計両側小立並べて町乃中通り
細き溝を掘流やり宿を出て半里計ゆげバ久可の綾部
町引はきて久可本郷宿高森より
是まで一里人家百四五十軒あり
まき巴續まき綾部の新町此の綾部と本郷と新町と
合せて人家四百軒むらう宿屋あれども茶屋ハあり本郷こ
新町と月替ガハふ驛しほつぎの役を勤む此邊布の島あり木綿
の縮織ちぢみおりを出すゆげ此所も離とちまき半里行バ野口村農家
十四五軒ありまき巴半里行バ金明寺村人家十四五軒茶屋



周防
秋河
岩国里
錦川
之橋
國



所ありて、門内小樹木多く又町屋等あり。旅人橋を渡ることを
ゆるぎ舟よりまゝりて川岸を山ふらひて行此川竹助小水
車を為掛る船あり。船中小碓ありて陶器の土を舂ゆき
水碓をりて半里計行ハ關戸の宿。本郷より是四里人家四百軒
計茶屋宿屋あり。脇本陣の村尾武右衛門といふ小宿あり。ま
柱野より半里計西乃山中あり。十六七の女二人小あふ抜多
の道あり一人の女霍乱して物もえ、いふ土色ふたりて甚苦
げあり。女哀まるとんく薬をよへく通つとまゝり。室積の者
たるが田植も仕舞ひまゝにハ參宮をわい立るありといひ。平
愈を得たりや覺束なり。

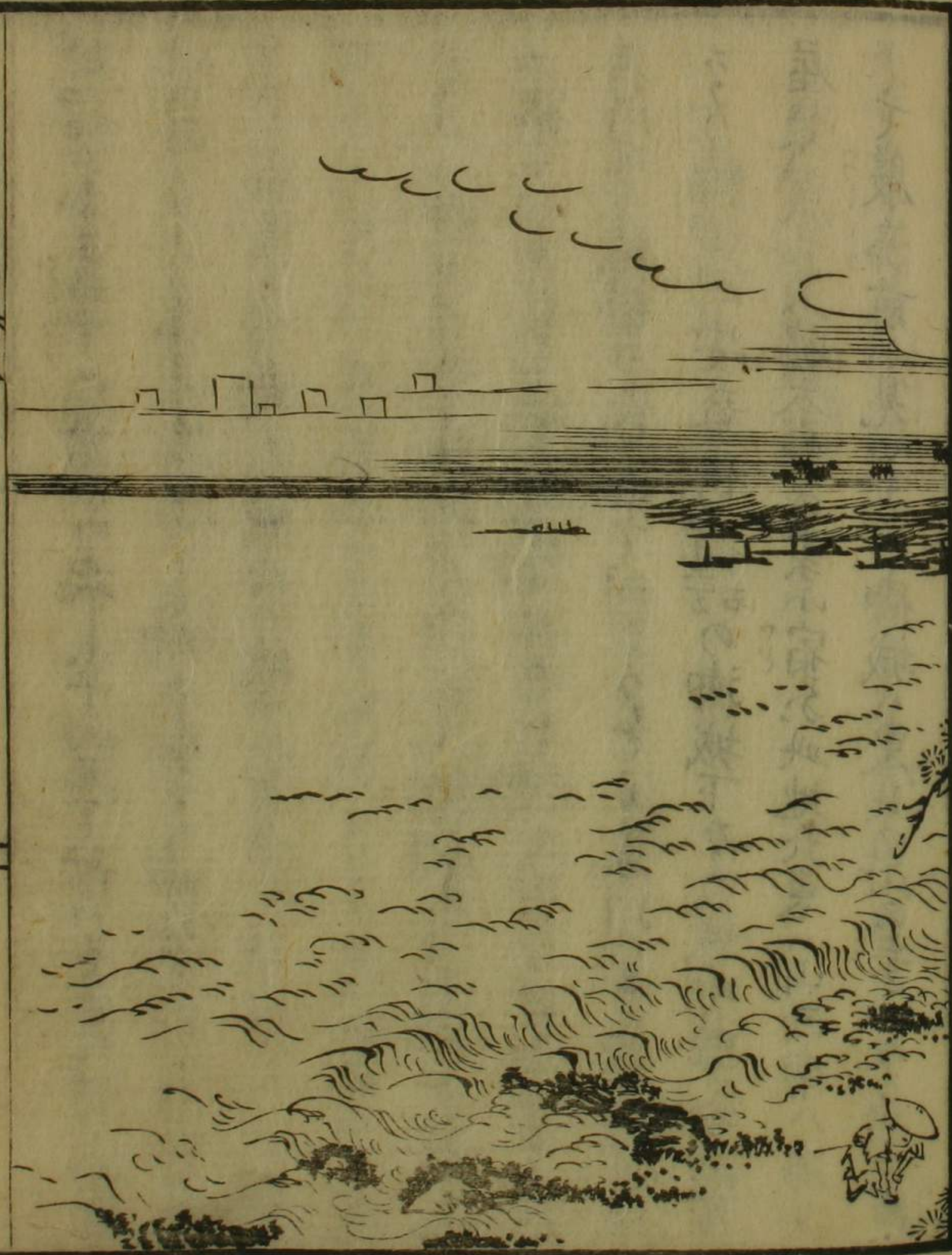
○六月朔日卯刻過小立出づ。谷間乃山坂十丁計登りて十
六七丁下まゝ小瀬村人家二十軒あり。間の宿をまど宿屋茶屋
あり。村乃端まゝ小瀬川を滴四十間計の川あり。安藝周防の
境あり。舟あり。まゝに安藝國この村。中津川原村道より
半丁計奥北方小人家四五軒あり。又山坂十四五丁登りて廿
丁むらり下まゝ緒方町町の入口志むらり程ハ片側の町あり。南乃
方小海潮漫々として島々遙小列あり。あふ心目を悦び。せ。
町屋すべく五百軒小あまうていと長し。商家多く諸物乃問
屋及宿屋あり。此所より宮島其外の所へ渡りてき便船
多し。かく町をばらけく濱邊の道を流るひは小北小を

小八石五六斗八九斗計迄も出来ふよりぬき町をけりて
濱邊小出て浪打際を三十丁計行ハ五日市村人家百軒計
道北小町を成して、うちの南ハ臨濱をうり、十丁餘のゆけバ
八幡川土橋の長さ二十間計あり川をまれば川小添く人家
二十軒をりある村あり炎暑堪ざるも暫時休て行
べしとて行く茶屋をまぐるひもゆるふいと華好ふ
茶店あり前小大なる木の一枚やおい成りて立りける小木
まゝ往来の人の腰懸べき料小まけ酒へる床あり、や
焼くてまづ体むぎて汗おのひはく此里乃名をまへば
あせむ村とらやいふ人々もあらずとらきまきり

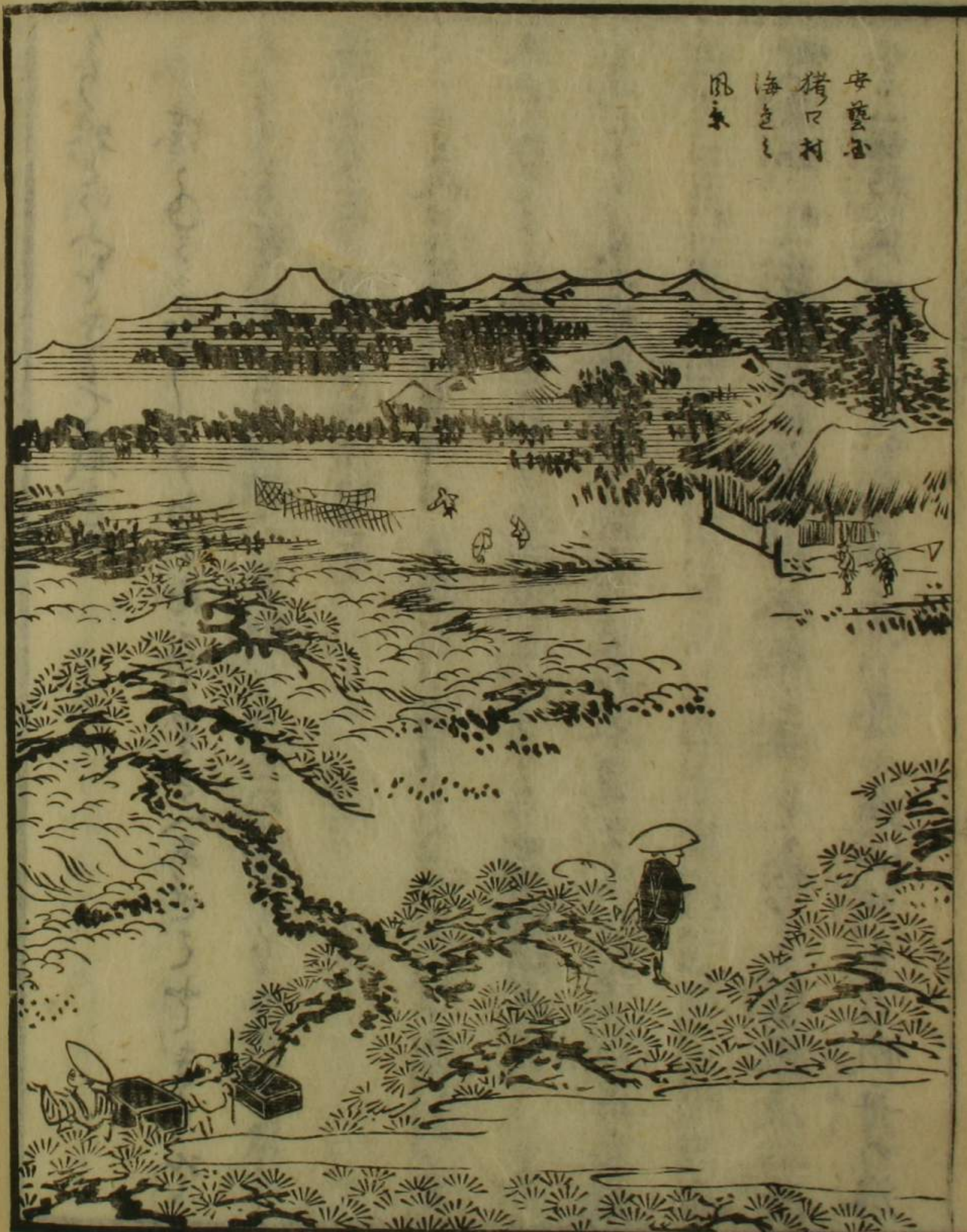
うりれどいふもききて戯まふ

遠のくをりてうち本もまきあせこやまきくや
くろくろ何なるものハ供乃男額より玉のおもくなる汗を流し
焼ふむられ土ふもをばききて

そとぐておりしめきふも道理をりやまむといふも
あせハともせむていへえめば人々もうちあひはくまむ
るくちちすさそ潮時小此山片手の本道をくまゆるまゆふ
潮干たれば浪打際乃近道をゆく三十丁計行ハ猪の口村片原
町漁師町等いふあり此辺の海岸に並る松ども盤根浪小洗
し曲枝風小掃をれく海上小ハ島々並び列をり帆舟の浮



安藝
猪口村
海色
風来



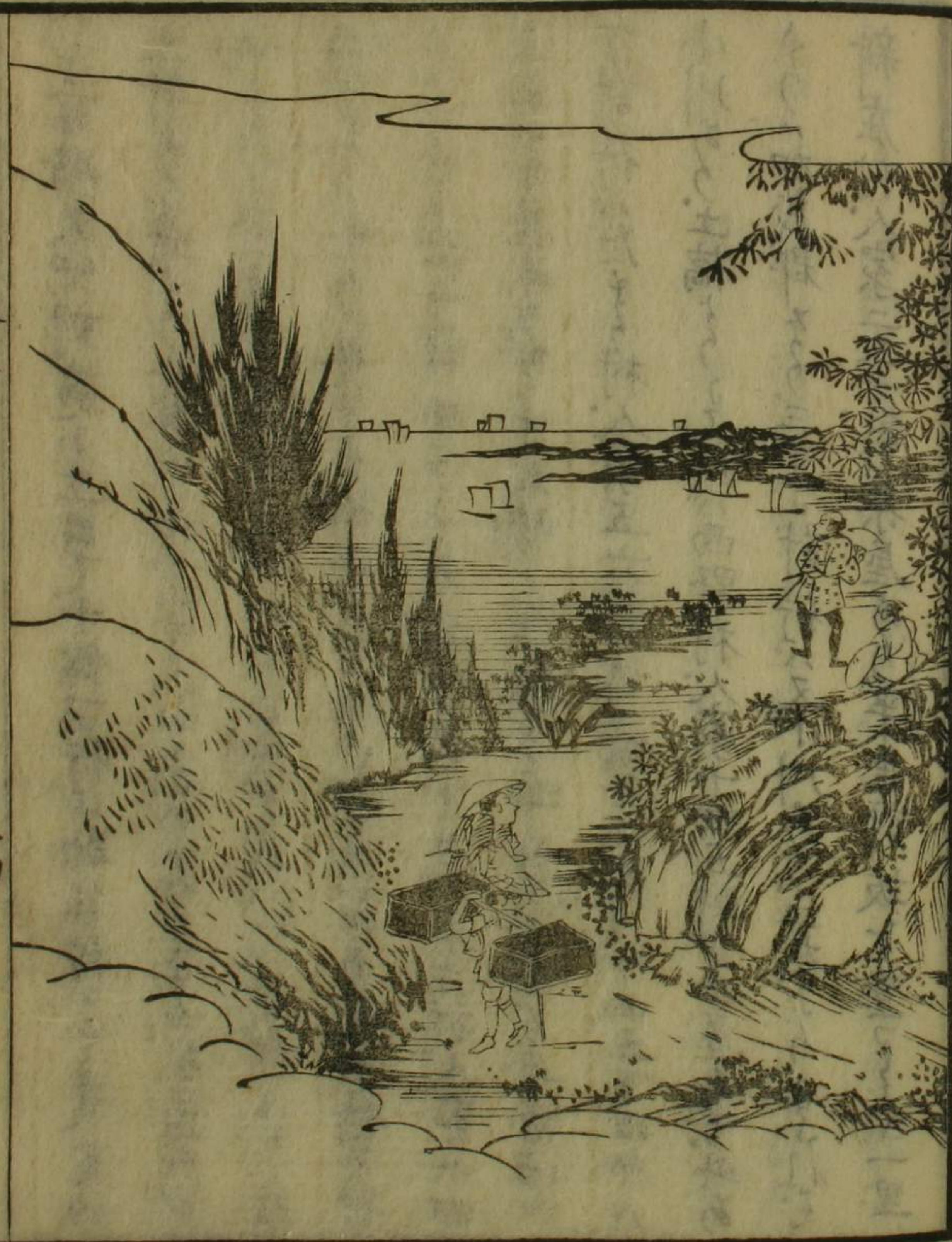
び行ぢもど畫中の景とつづし。十四五丁行ばくさる村人家
二百軒をり茶屋宿屋あり。間の宿をり。四五丁行、西軒屋
として茶屋あり。是より新田の堤の上を三十丁計行、大川を
潤百間計の川あり。土橋をり。川をり。終に松原まで茶
屋四五軒あり。五丁計行ば又川あり。潤前の川小同ト。是も
土橋をり。二丁計が間村中を行て村をけり。是も
又川あり。板橋の長さ四十間をり。川のあり。廣島
をり。廿日市より
是より三重安藝侯四十二万
九千石の御城下をり。堺町四丁目山澤
屋榮藏より脇本陣の家小宿ふ。此地北東ハ山。西南ハ海。小
して巖島前小見や。ま。御城ハ東北の山の手小あり。三重の

天守あり。町屋通筋入口より出口まで七十二丁。皆瓦葺少く富
高多し。町筋縦横小あるなり。

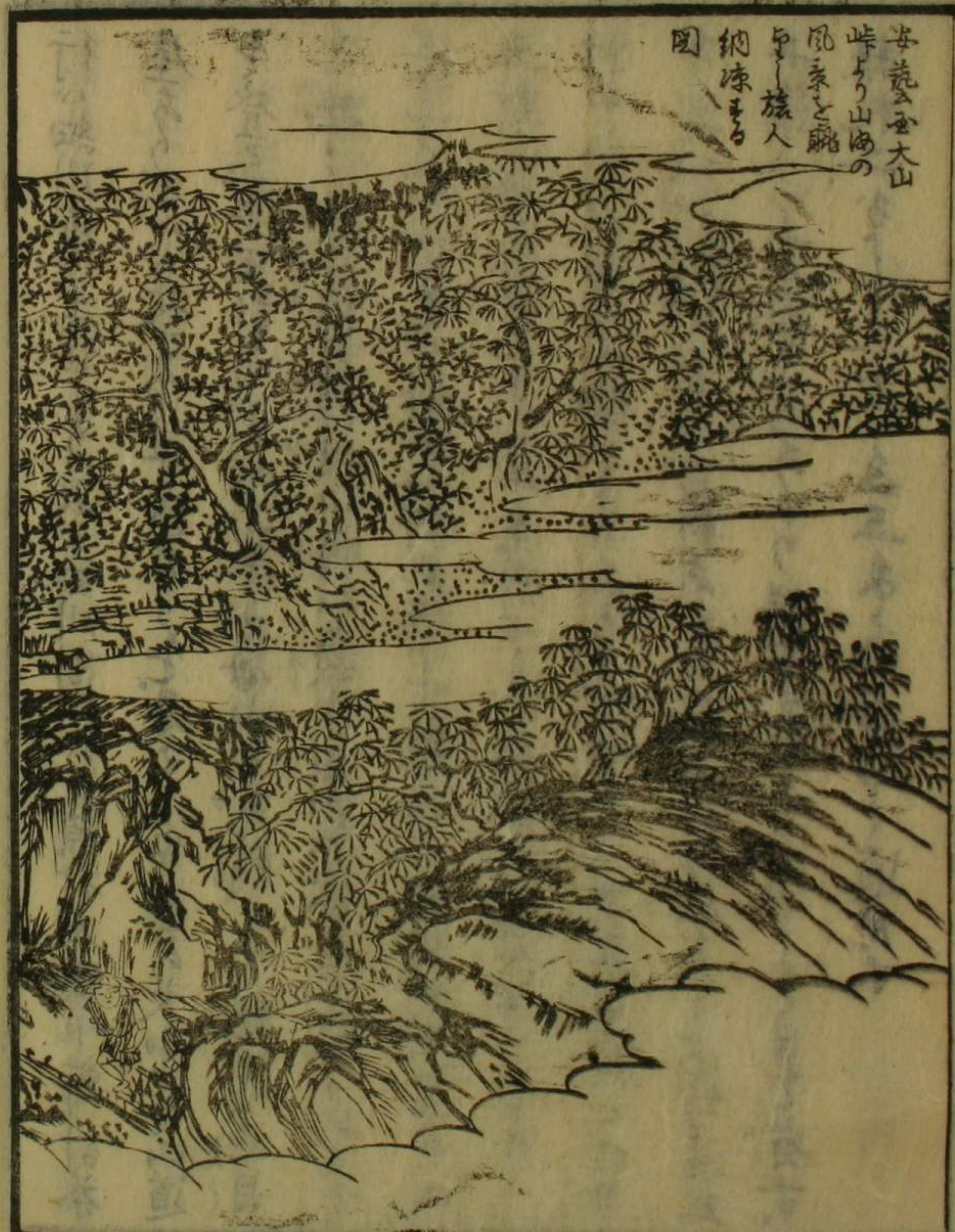
○二日今日七日より卯刻過小立出。志ざり行ば。さ。川橋乃
長さ三十五間計。三丁ばり行ば平太川橋の長さ三十間計。
又三丁行バ川あり。橋の長さ三十四五間あり。五六丁ゆけバ又
川あり。橋の長さ四十間をり。此二川の間小川小橋二つあり。三
丁計行バ片が村。村をり。四丁計の町をり。二丁計行バ岩
鼻村人家十軒計茶屋あり。村中小大なる岩山あり。て。さ。小
軒計あり。三十丁計行て二丁計坂を下ま。バ舟越村。入海の

小湊をり。人家三十軒計。茶屋を。濱手を廻き。海田市宿。廣島より人家八百軒計。大形瓦葺ふて宿屋。茶屋。商家多し。二三丁行。奥海田村。人家四十軒計。皆農家なり。二十丁あり。行。小川あり。土橋より渡。中野村。人家三十軒計。商家。茶屋あり。猶もゆき。をり。人家。所。ふありて。十丁をり。あり。細川あり。土橋より渡。二十丁計。ゆ。は。下瀬野村。人家十軒。二十軒計。は。十丁計の間。は。所。ふあり。又十餘丁行。落合村。茶屋あり。人家十四五軒。は。所。ふあり。十四五丁行。上瀬野村。人家。所。ふあり。茶屋宿屋。も。あれ。間。の宿をり。二十丁計。行。む。一人田。人家十四五軒。茶屋あり。半里計。

行。細川あり。土橋より渡。小川向。い。久原村。人家十軒計。茶屋あり。ま。て。是。ま。で。平道。を。是。より。安藝の大山。と。山道。を。登。ふ。半里計。あり。峠。ふ。至。ふ。海山。を見。晴。して。眺望。ふ。心。目。と。樂。し。め。木。陰。の。清。風。小。襟。を。披。き。身。を。休。り。て。ま。が。り。て。三十丁計。下。ま。は。人家。二軒あり。十丁計。行。飯田村。人家。十四五軒。茶屋あり。ま。と。半里計。下。ま。は。地家村。人家。所。ふあり。村。中。小。小。川あり。土橋。を。り。茶屋。を。り。半里計。行。四日市宿。海田より人家。四百軒あり。茶屋宿屋。多し。小竹屋。庄。兵衛。と。の。小。宿。ふ。此。あり。錢。百文。を。百文。と。目。を。省。す。銀札。二。分。より。五。分。一。と。四。等。ゆ。と。通用。す。



安芸至大山
 峠より山の
 風来と聯
 中一旅人
 納涼する
 図



○三日晴天卯刺過小立出て十餘丁行バ助谷村とて農家四
五軒あり是より小松山とて山中小ぢ家のどやうなる坂道の沙
地をれば登りて行く。松ありて茂りあひて日かげもぬ
山中あり。そごう登りてや下まる所小細き流のある小土橋を掛
り。すて三十丁計登りて又三十丁計下まれば石立村人家十四
五軒茶屋あり。がくて又峻き坂と五丁計下りて平道四十
丁計行バたまり村人家五六軒はく所小あり。十四五丁ゆけバ
小川あり。土橋より。は西野村人家十四五軒茶屋あり。此あ
り。ハ加茂郡なり。三十丁計行バ又小川あり。土橋より。は
新庄村人家二十軒茶屋あり。半里計坂を登りて一里

計下まれば藤棚小青葉まげりて道傍小茶屋一軒あり。
又四十丁計行バ萱町人家五六軒あり茶屋あり。十丁計行バ
本郷川。濁六十間計なるを歩より。大水の時ハ船小て
渡す。川をまれば奴田本郷宿。四日市より。人家百軒あ
り。宿屋茶屋あり。立入て休む。炎天の暑氣堪が
らして。駕籠の中。蒸籠座す。汗の衣を
浸す。粘り。何れも衣服を脱身をのび。風を
入き喘を止めて昼食す。がくて又出て。大川の堤小をひき。
三十丁計行バ川あり。土橋より。又二十丁計行バおき
る村人家十軒計茶屋あり。安藝備後の國境なり。堤をひ

の道炎暑殆どなく半里行ハ新蔵村人家二十軒どろ
茶屋あり二里行ハ備後國三原宿本郷より身藝州の家臣淺
野甲斐殿三方五の城下をりといふ入口をハ西町といふ西町十丁
餘を過く城門ハ丸の内をゆくこと十丁あまり此間ハ城門
四つありかくて東町ハ出く十丁あまり行ハ出口をり城ハ東
の方ハあり城の東北ハ山南ハ海西ハ田野小ハ城たれども佳
麗なり甚観つべし町ハ東西合せり三十丁計高家おろく
茶屋あり此地綿を多く作り出す又城下村ハ小薬種
の烏梅を多く製すあり出口より二三丁行ハ軒家華好
小賑りき茶屋あり濱邊ハゆる道たれば茶屋乃座

敷よりえりしハ小ハ南のくに入海の島ハ重々列たり
とハ名高き林泉をバ大きめてなごめんが如し一里
あまりゆちハ系崎と濱邊ハ茶屋三四軒あり此所より
眺む海陸の風景又佳勝いんがハ系崎の八幡や
浄社あり長崎を立くより以来此の如き茶屋ありり
家廣く室潔く佳景の中ハ立る上ハ主の女乃美艶
なりこやまて類なき聲はきやうく嬌媚て詞はま
くあつらひのよは小暑さも忘れてめづりおろく立
く覺ゆるげりなり又行くと一里計あり濱邊を離れ
て福知村人家二十軒計茶屋あり半里行ハ吉和村人家

備後国糸崎
茶店之風景





佐後
吉和村
表夫伯
涼之國



三十軒計茶屋あり。今日乃道宿^ママ^ンバ^ハ五十丁を一里く
て十一里半^ハ日中^ハ暑氣小堪^ム。人夫も休^ムながら小^ハ遅^ク
く^ハけ^バ此^ノ所^ニて日暮ぬ黄昏小見渡せば村民の翁媪夫
婦^ノ兒孫^ヲま^シて胡瓜の垣根の下小^ハ庭^ニう^ラしき羣^ヲ居て納涼
して徳利を傾^キ茶碗酒をの^シて心安く嬉^シげ^テ語らひ
くら^ハの^ハも^ハれ^ハハ^ハ夕^ノ魚^ノ棚の^ハも^ハも^ハこ^ノ男^ハて^ハら^ハ婦^ハ三
布^シて^ハら^ハ狂^ノ哥^ヲを^ハば^シて^ハ其^ノま^ニを^ハら^ハと^ハゆ^ラし^ク羨^シし^ク思
ふ^ガく^テ半里^ハを^ハら^ハゆ^ラく^テ。尾^ノ之^ノ道^ニ至^リて大
黒屋宗兵衛と^ハ脇^ノ本^ノ陣^ノの家^ニ小^ハ宿^ス。此^ノ所^ノの^ハ海^ノの^ハき
小^ハ記^ヲを^ハら^ハび^ト。

○四日卯刻小立出十丁計坂道^ヲを登^リて峠^ニ至^リて^ハ領^ノ地^ノ境
の表^ヲを^ハら^ハ是^ノより西^ニ廣島の御領東^ニ福山の御領なるは
を^ハら^ハ三十丁餘^ヲ下^リて^ハ鷹^ノ巢^ノ村^ニ茶屋一軒あり。二十丁^ハば^ハら
行^バ砂川あり水^ヲ引^キ五六丁^ハを^ハら^ハゆ^ラげ^バ。今須宿^ニ。尾^ノ之^ノ道^ニ至^リて^ハ福
山の御領を^ハら^ハ人家通^筋小^ハ二百軒計。湍濱の方^ニは百軒計
ありと^ハ宿^ノ屋あり茶屋あり十丁計行^バ加村人家四五軒
茶屋あり四五丁行^テ猶^ト同^シ村^ニて^ハ人家十四五軒茶屋多
し二三丁行^バ伊勢^ノ宮^ノ村人家三四十軒より茶店あり。
此^ノ所^ノより福山^ノ小^ハゆ^ラ道あり。是^ノより山道^ヲを^ハ先^ニ上^リて^ハ一里^ハを^ハら^ハ
行^バ此^ノの越^ノ村^ニ農家二十軒計茶屋多し。一里計行^バ大渡

川、濶八十間をりあり、舟を渡ふ。川向ひ小茶屋あり。おひ
はぎて川あり、板橋の長さ三十間計りあり。橋をりてまは
横尾村人家二十軒計り、潔淨なる茶屋あり。二十丁ばり
行く番所乃あるをりゆけむ。神邊の宿、今須より是人家三
百軒計り、宿屋茶屋あり。村中小川あり、半里計り、行ハ御領村。
備後備中の境をり。此村十四五丁の間、人家百餘軒散
在せり。茶屋あり。此邊の田野を見ても、今頃一も稲
の花盛なり。六月中旬頃、年々新米を出す。とらへて二十
餘丁行ハ西ハ福山の御領、東ハ御公領といふ所の表をり。
又二丁行ハ、備中高屋驛。神邊より是御公領をり。人家二

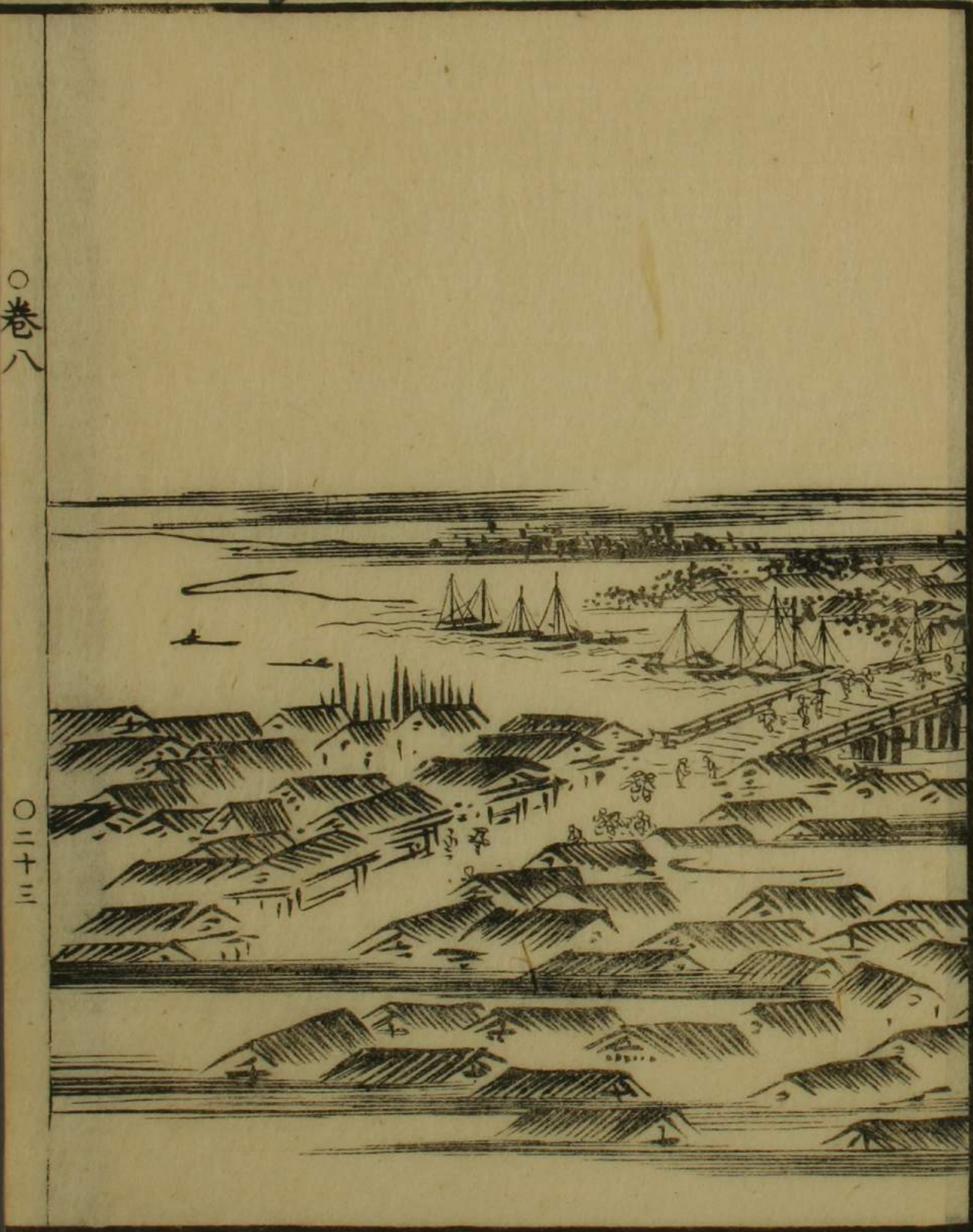
百軒計り、商家茶屋あり。宿屋もあまどようぐず。ゆゑ午刺
ばりあり、めれをあるゆ、弥増ふまへて、道ハ木陰もなれ、
駕籠の中ふありても、焼くまがごとくなる小苦こあぐりこ
農民田間の業をり、やりにくく、ふも田乃草をとんとそ
媪婦兒女等打連て、田舎歌をハ可咲き声くして、快ぶ、喫
はきて、背中ハ炎天、小照はけら、是は、俯伏小をり、草と
あり、誠や四民の職業、各おろなる、あぐり、小容易な
ざる中、小農業、小艱難なる、ハちりたり、粒、皆辛苦、
成て民の膏澤なり、とら、古人の詞、なふふ、我等幸、小餘閑を
得る身あり、遊觀のゆゑ、を求ふ、あ、小暑中旅行の

苦みをかゝる事、忝く勿躰を、次第をりと、むふ心と慰て、伴ふ人々も、あひつて打笑ひくや、ぬきて驛乃出口り川あり、歩より渡ふ、五六丁行、いざ村人家五六軒あり、はきて宮原村人家四五十軒、又次小上下の土部村を、はきて四五丁行、七日市村、高屋駅より是町屋六七十軒、農家計、て茶屋宿屋を、村乃出口、七日市川あり、瀧三十間、げり歩より渡ふ、川向い、廣町農家二十軒計あり、十四五丁行、今市村人家百軒あり、茶屋宿屋あ、間の宿を、村中小川あり、土橋より、十五六丁行、押留村人家、五六十五六軒、てあり、茶屋もあり、一里餘、行、小田村人家五六

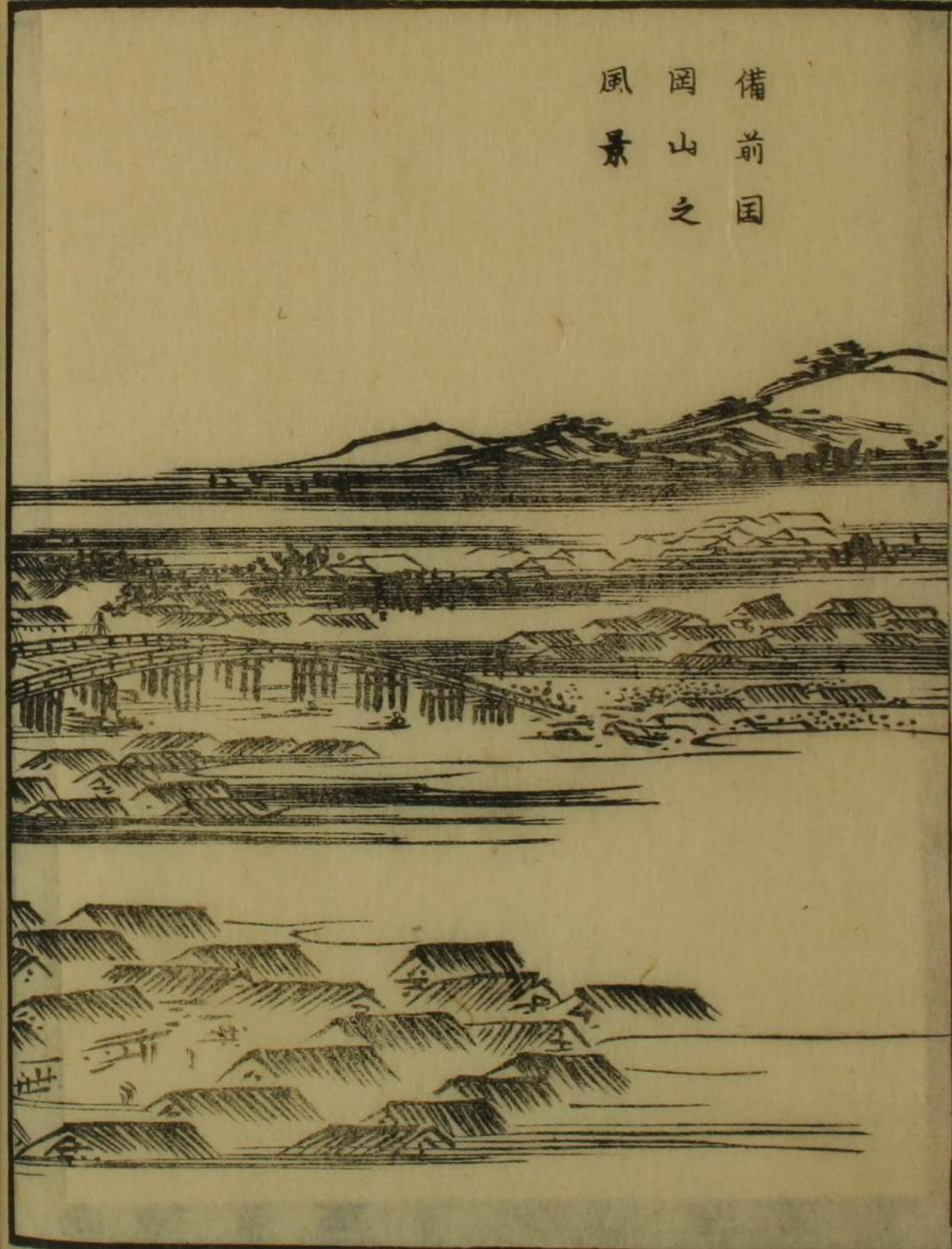
軒茶屋あり、二十丁計行、六反村人家二十軒計、茶屋あり、四十丁計行、む矢掛川、川瀧三十間、むり歩より渡ふ、川向い、矢掛宿、七日市より町家十間計、ふ立、はきて、是まで三里屋並、く瓦葺、蔵造多く、商家茶屋宿屋多し、銚屋林助、のふ宿、やま○五日空陰、卯刻過、小立出、半里行、東市場村人家二十軒計、茶屋あり、半里行、む、いざ村人家十四五軒、藤棚のあり、茶屋あり、一里計行、尾崎村人家二十軒計、茶屋あり、此あり、平道、くゆき、いざ、の田地、小過半、綿を植、い、五六丁行、左の方乃山の手、小吉備大臣の廟あり、二三四丁行、今市村人家三十軒計、茶屋あり、三十四丁計行、

川邊宿。矢部より是より三里此内 町屋五六丁小立續つきて高家多く
茶屋宿屋あり。家造やづくりり。折しも宿内しや小閉門へいもんの家二十餘軒
あり。博奕ひやくちの竹助たけすけ小連累つらあひの輩たぐひなり。ふ出口小大川あり。瀨
二つ舟渡ふねわたり。此ありより小雨降ふり出て漸しだく小強つよく成ぬ。
此頃このときの炎暑えんあつ小、皆人惱みなやみ苦くるし。今日けふもあまるくこてり
けいまふ必得え堪たへて病者びやうしやも出来きんとしむふけさり
陰雨いんうの空そらあくや涼すずしく息出いきふ心持こころもちのさふ強く降ふ出
まばいくまんく競きい喜よろこぶく湯魚つづぎ乃水みづを得と枯苗こなの雨あめは
遇あへふ似にたりとしふも及およばさる事のさらなり。つて川を
りれば中島村人家二十軒計茶屋あり。持坂もちさかといふ坂を三

四丁登ありて四五丁下くだまは西郡村山の手小人家三四十軒あり茶
屋あり。半里計行ゆば宿町人家四五十軒茶屋あり。又半里行ゆ
せんとく村人家三四十軒茶屋あり。又半里行ゆば矢部村人家
四五十軒茶屋酒屋あり。出口小川あり。長さ二十間をりの板橋
をくけつろをこしりて半里行ゆば板倉宿川辺より町屋七八丁あり
て茶屋宿屋多し。例れいの藝子遊女げいしよもありとりを南の方へ向むけ
て吉備津宮よきひつみやへ行道あり。宿をとりて七八丁をりゆば
備中備前の國境くにがはなり。つて二十丁行ゆば正面村人家三三
軒茶屋あり。十五六丁行ゆば矢坂村人家十四五軒ありとり
茶屋あり。此こ所をすてて小坂を越こまば方をり村茶屋あり。



備前國
因山之
風景



又半里行ハ岡山ノ入口ヲリ。備前國岡山板倉より是松平上総
介殿三十一万五千石の清城下ナリ。入口の郷町かづまろ一町行ハ惣門あり。門小
入テ町屋十丁計行ハ城門あり。城門小入丸の内をゆくこと
五六丁あり。城門を出テ、まま町屋を五六丁行ハ小川あり。
橋をこりテ五丁計行ハ濶七十間計の川あり。渡せる橋を
京橋と称す。ままと渡りま行テ菊屋儀吉よつ小
宿ふ通筋町屋の長さ五十丁。工商こうしやうとれり。富豪ふたうの家多
く。脈みりき御城下ナリ。御城ハ北東小あり。三重乃天守
見ゆ。

筑紫廻行巻八終

